

会

陽光茂加

法人福祉社会

事業報告書

陽光茂加

法人福祉社会

令和5年度

# 令和5年度 社会福祉法人加茂光陽会 事業報告書

## 1 概要

令和5年度における事業運営の基本方針は、以下のとおりであった。

### 1、福祉施設としての目標

- ① 利用者から信頼される、充実したサービス
- ② 利用者家族から信頼される施設運営
- ③ 地域社会から信頼される、心のこもった福祉サービス
- ④ 地域との交流を深めるイベントの実行
- ⑤ 職員同士お互いに信頼し合える、職場環境づくり
- ⑥ 内部及び外部における職員研修、資質向上のための研修受講や資格取得の推進を図る
- ⑦ 地域における公益的取組の実施
- ⑧ 納入総統計画の検討

### 2、経営面の目標

#### 【堅実な法人運営・経営改革への取り組み】

- ① 経営意識の醸成と経営組織のガバナンスの強化
- ② 経営理念、経営方針の明確化と浸透
- ③ 各事業所とも稼働率95%の確保
- ④ 事業運営の透明性の向上
- ⑤ 財務規律の強化
- ⑥ 各種加算の積極的取得

これらを重点目標として事業を実行し、法人の厳正な運営を行うとともに各施設の新たな発展と安定した経営の確立に努めた。新型コロナウイルス感染症が5月8日5類感染症に移行されたが、重症度は低くなつたものの感染持ち込み防止のため苦慮した。また、施設の老朽化に伴う修繕費の増加、光熱費・物価の高騰、職員の離職により、経営は大変厳しいものとなつた。

## 2 事項別の状況

- (1) 施設目標については、各施設が目標達成に向けた努力を継続し、利用者へ寄り添うサービスを日々心がけた。
- (2) 経営意識の醸成と経営執行機能の強化については、全体会議や管理者会議など機会あるごとに、経営者から管理者に向けた啓発を徹底した。また、各組織における職位と責任の明確化及び部下への指導・教育の徹底を図った。
- (3) 経営理念、経営方針の明確化と浸透については、全体会議、研修の場を活用し、全員に浸透を図るべく努めた。
- (4) 職員の確保を図り安定した運営を目指したが、職員採用に事務職員1名、介護職員11名（内外国人特定技能3名）、看護師1名、調理職員1名を確保したが、パート職員の比率が高いうえに離職者が20名となつたため、夜勤可能な者が不足し、介護・看護・調理現場は苦戦を強いられた。そのため、各職種へ派遣職員を採用した。安定した職員確保のために、本法人では奨学金制度を導入しており、地元大学の学校法人美作学園美作大学短期大学部専攻科とも連携を図った。
- (5) 経営面において特別養護老人ホーム緑山荘は、入所者の長期入院加療、他施設への転居などもあつたが、平均稼働率は95.1%で、前年度に比べ利用率は0.1ポイント増加となつた。短期入所は、入所者が新型コロナに感染し受入れを中止することもあつたが、利用者宅で月1回の抗原検査の実施、健康チェックシートへの記入を行うなど、積極的に受け入れを勧めため、平均稼働率46.0%となり昨年より5.7ポイント増加した。グループホーム杉宮は、入所者の入院等があつたため、1.4ポイント減の平均稼働率96.3%となつた。
- (6) 現場事務の効率化を図るためにタブレット・インカム等のIT機器の活用を図った。
- (7) 法人全体の企画実行委員会を中心に、演奏会、文化講演会、地域の方が法人の開催する季節ごとの催しを計画していたが、新型コロナウイルス感染症拡散防止のため昨年同様中止を余儀なくされた。

## 3 報告

- (1) 新型コロナウイルス・感染症対策  
5月に新型コロナの5類移行後も、施設内で感染の拡大が発生しないよう対策を行つた。

4 現法人の組織（令和6年3月31日現在）

- (2) 所在地 岡山県津山市加茂町小中原115番地  
(3) 法人名 織 社会福祉法人 加茂光陽会  
(4) 組織 役員8名（理事6名 監事2名） 評議員 7名  
(5) 役員氏名 理事長 只友世穂子  
業務執行理事 薄元 優子  
理事 小倉 道紀 平井 通博 鈴木 洋二 岡田 和子  
監事 神崎 信輔 小松 茂  
(5) 評議員氏名 三浦 敏章 八木恵三子 八木美佐子 山本 智英  
春名美知孝 斎岡 礼治 江見 正暢

5 令和5年度施設整備等の状況

内 容	金額(千円)
特別養護老人ホーム緑山荘消防設備更新工事(1式)	509
グループホーム杉宮洗濯機取替工事(1台)	308
特別養護老人ホーム緑山荘・グループホーム杉宮豪雪による雨樋修繕工事(1式)	1,408
特別養護老人ホーム緑山荘居室エアコン修繕工事(1台)	242
特別養護老人ホーム緑山荘介助浴修繕工事(1台)	353
特別養護老人ホーム緑山荘居室エアコン修繕工事(3台)	294
特別養護老人ホーム緑山荘居室エアコン修繕工事(1台)	181
特別養護老人ホーム緑山荘トイレ換気扇修繕工事(1式)	110
特別養護老人ホーム緑山荘居室エアコン修繕工事(1台)	484
特別養護老人ホーム緑山荘居室エアコン修繕工事(4台)	1,089
特別養護老人ホーム無線LANアクセスポイント有線工事(1式)	162
特別養護老人ホーム緑山裏出入口フェンス扉設置工事(1式)	129
グループホーム杉宮しゃほん玉ホールエアコン取替工事(1台)	539
特別養護老人ホーム緑山荘厨房前照明器具取替工事(1式)	132
特別養護老人ホーム緑山荘居室エアコン修繕工事(3台)	722
グループホーム杉宮居室エアコン取替工事(2台)	220
合 計	6,882

## 6 理事会等開催状況

年月日	事項	説明	備考
R5. 5. 12	監事による監査	法人及び各施設の業務の執行状況及び、収支の状況、財産目録等について監査を受ける	
R5. 5. 16	第1回理事会	1 令和4年度事業報告・決算報告・監事監査報告 2 理事候補者・監事候補者の推薦提案事項 3 評議員会の招集 以上、原案通り可決・承認	
R5. 6. 8	第1回評議員会	1 令和4年度事業報告・決算報告・監事監査報告 2 理事・監事の選任 以上、原案通り可決・承認	
R5. 6. 8	第2回理事会	1 理事長及び業務執行理事の選任 以上、原案通り可決・承認	
R5. 12. 13	第3回理事会	1 令和5年度第一次補正資金収支予算 2 評議員会の招集 以上、原案通り可決・承認	
R5. 12. 22	第2回評議員会	1 令和5年度第一次補正資金収支予算 以上、原案通り可決・承認	
R6. 3. 19	第4回理事会	1 経理規定変更 2 令和5年度第二次補正資金収支予算 3 令和6年度事業計画 4 令和6年度資金収支予算 5 施設長の任免 6 評議員会の招集 以上、原案通り可決・承認	
R6. 3. 27	第3回評議員会	1 経理規定変更 2 令和5年度第二次補正資金収支予算 3 令和6年度事業計画 4 令和6年度資金収支予算 以上、原案通り可決・承認	

## 7 防火・防災対策

### 1 概況

令和5年度は令和6年1月1日午後4時10分石川県能登地方にM7.6の地震が発生し、石川県志賀町・輪島市で震度7、石川県七尾市・穴水町・能登町で震度6強等を観測した。岡山県内においては幸いなことに大規模な災害に見舞われなかつた。当法人においても、感染症の防止対策を講じながら、火災、水害等を想定した訓練などを行つた。

災害対策規程及び消防計画に基づき防火管理体制を整備し、職員の責任分担を明確にするとともに、消火・警備・避難整備等の定期点検を実施して非常の際に円滑に機能するよう努め、災害委員会において具体的な改善見直しを行つた。  
Jアラート訓練（全国一斉情報伝達訓練）津山市防災行政無線を活用して、職員等の防災・緊急避難意識の高揚を図り、通報・防災・避難訓練を実施した。

## 2 実施状況

### 3 消防用設備等の点検実施状況

実施年月日	内 容
R5. 5. 14	グループホーム杉宮 【総合防災訓練】
R5. 10. 19	特養、グループホーム 【総合防災訓練】 火災想定避難訓練を机上で実施
R5. 11. 1	グループホーム杉宮 【総合防災訓練】
R5. 12. 19	特養 【緊急連絡実施訓練】 災害時等の緊急事態に備えた連絡網伝達訓練の実施
R6. 2. 8	特養 【消化訓練】 火災が起きた場合の消火訓練の実施（パッケージ型消化施設の操作方法等）
R6. 3. 27	特養 【総合防災訓練】 火災が起きた場合の、通報訓練、避難訓練、救急救命講習

津山日本消防機具(株)と消防用設備の保守点検について契約し、令和5年9月26日と令和6年3月5日の2回施設の自動火災報知設備・防火戸・誘導灯設備・消火器具等の保守点検を実施した。

また、令和6年3月消防署職員監視下で、介護職員を対象に総合防災訓練、AED、救急救命講習を行った。

社会福祉法人 加茂光陽会

事業報告書

特別養護老人ホーム

令和5年度

## I 概要

“選ばれる施設作り”を目標に、職員の知識と技術の習得、思いやりの気持ちや意識作りと安全の確保を実現する為の取り組みや、利用者の尊厳の保持に努めることに重点を置き事業に取り組んだ。

### (1) 利用者の尊厳を保持したサービス提供

- ・利用者個々のニーズに合わせた個別ケアの実践に努めた。
- ・虐待や身体拘束を行わない適切な対応を行うために検討や工夫に努めた。
- ・安全、安心な生活を確保できるよう、事故防止策の徹底や環境整備に努めた。
- ・生活の場として日常を感じられるように季節の催し、クラブ活動やレクリエーション等の実施により生活の質の向上に努めた。

### (2) 職員の資質向上

- ・専門職としての知識・技術向上と資格取得のため、施設外の研修へ16回職員を派遣、施設内においてもオンラインを利用し9回の研修を実施し、能力開発と資質の向上に努めた。
- ・令和5年度の介護福祉士国家試験については1名の介護職員が受験し、1人が合格となった
- ・ケア記録のICT化に向けて、ソフトの導入にあたりタブレットやパソコンの効率よく使用する方法の検討や調整、入力方法の習得に努めた。

### (3) 地域社会との交流

- ・新型コロナ感染症拡大防止のため、地域住民も参加できる研修や文化講演会は実施できなかつたが、納涼まつりは2部制にして、ご家族に参観いただき実施した。実習生およびボランティアの受け入れは行つた。

#### (4) 稼働率を上げるための対応

- ・待機者の減少がみられ、居宅介護支援事業所、病院の医療連携室との連携を図り、病院退院後や施設退所後の行先として入所申込み者の獲得に努めた。
- ・入所申し込み後、新型コロナ感染の影響で面接や入所が直ぐに行えない状況だった。
- ・健康管理、事故発生防止、早期退院受け入れにより入院期間の短縮に努めたが、入院者が多い状況があった。

## II 処遇の状況

### 1 介護

#### (1) 概況

利用者自身が有する能力に応じ、可能な限り自立した生活を営むことができるように、また、寝たきりの状態にならず、活気のある日常生活を送ることができるように、個別の援助計画（施設サービス、栄養ケア等）を作成し援助に努めた。

#### (2) 実施状況

##### ①介護サービスの質的充実

- 専門職としての知識・技術の向上を図り、利用者個々のニーズに合わせたサービス提供に努めた。
- ②利用者の生活の質（QOL）の向上  
体調に応じてではあるが、離床することを基本として、利用者の生きがいと活気ある生活が実現できるよう、リハビリやクラブ活動や季節に応じた行事、レクリエーション等計画し実施した。誕生日会では写真のプレゼントを行った。  
毎週水曜日に介護ミーティングを行い、情報共有、改善点、ヒヤリハット、事故報告書の振り返りを行い技術向上を図った。  
口腔ケアを毎食後に実施し清潔保持に努め、誤嚥性肺炎のリスクを軽減した。

### ③生活環境の整備

衛生的に快適な生活が送れるよう、施設内を清潔に保つことを心がけた。また、安全確保のための環境整備や修繕箇所の補修を行った。

### ④地域社会との交流

地域行事への参加、施設行事への地域の方々の参加により利用者自身が地域の一員であることを意識できる機会を作る事と施設への理解を深める事ができなかった。

#### (3) 反省と今後の課題

利用者の尊厳の保持と個々のニーズに合わせたサービス提供については、専門職としての知識、技術の向上に努め、利用者本位の対応を継続していく必要がある。

病院の地域連携室や他施設等への情報提供や営業を行うことで、入所申込者の増加に努め、日常的に連携を図ることで早期に入所の決定ができるよう取り組む。

また、事故や病気の発生を最小限に食い止めるべく、安全面への配慮と健康管理に努めるとともに、入院等の状況を回避し稼働率を高めるよう努める。

施設での生活が楽しみのある充実としたものとなるように、様々な企画等を実施するとともに生活の場として、安心・安全に過ごすことを保証すべく多職種協働でのサービス提供を行っていく。

新型コロナ感染拡大に注意しながら、できる限り外出の機会を増やし地域社会との交流を深めたい。

#### (4) 週間業務

1週間における業務を次のとおり実施した。

## 令和5年度 曜日ごとのサービス内容

	日	月	火	水	木	金	土
午前	ルームケア 身辺ケア 更衣 ベッドメイキング	ルームケア 身辺ケア 更衣 特浴 ベッドメイキング	ルームケア 身辺ケア 更衣 特浴 ベッドメイキング	ルームケア 身辺ケア 更衣 特浴 ベッドメイキング	ルームケア 身辺ケア 更衣 特浴 ベッドメイキング	ルームケア 身辺ケア 更衣 特浴 ベッドメイキング	ルームケア 身辺ケア 更衣 介助浴 ベッドメイキング
	身辺ケア 更衣 ベッドメイキン グ	身辺ケア 更衣 ベッドメイキン グ	身辺ケア 更衣 ベッドメイキン グ	身辺ケア 更衣 ベッドメイキン グ	身辺ケア 更衣 ベッドメイキン グ	身辺ケア 更衣 ベッドメイキン グ	介助浴 身辺ケア 更衣 ベッドメイキン グ
午後	身辺ケア 更衣 ベッドメイキン グ	特浴 身辺ケア 更衣 ベッドメイキン グ	特浴 身辺ケア 更衣 ベッドメイキン グ	介助浴 身辺ケア 更衣 ベッドメイキン グ	特浴 身辺ケア 更衣 ベッドメイキン グ	特浴 身辺ケア 更衣 ベッドメイキン グ	介助浴 身辺ケア 更衣 ベッドメイキン グ
	ベッドメイキン グ	ベッドメイキン グ	ベッドメイキン グ	ベッドメイキン グ	ベッドメイキン グ	ベッドメイキン グ	食事

- ・シーツ交換(週1回以上)、ボータブルトイレ洗い隨時
- ・散髪 月2回程度 第二火曜、第三水曜(外部業者による)
- ・クラブ活動 第4金曜日14:00～実施
- ・天気の良い日に外気浴の実施
- ・誕生日会 第二水曜

<レクリエーション>

利用者の余暇活動と機能回復をはかるために実施した。

(実施状況)

	実施内容
令和5年 4月	お花見会 (中庭の散策)
5月	端午の節句
6月	ミニ運動会
7月	盆踊りの練習・納涼まつりへの参加
8月	七夕まつり
9月	敬老会参加 (祝賀式・懇親会)
10月	もみじ狩り・柿とり
11月	大運動会 (懲業対策の為2日に分けて実施)
12月	新年を迎える会 (餅つき)
令和6年 1月	書初め・絵馬つくり・お年玉
2月	節分：ミュージカル風豆まき
3月	ミニ運動会

(令和6年3月31日現在)  
＜利用状況＞

	合計	R5.4	R5.5	R5.6	R5.7	R5.8	R5.9	R5.10	R5.11	R5.12	R6.1	R6.2	R6.3
稼働日数	366	30	31	30	31	31	30	31	30	31	31	29	31
平均利用者数	計 男 女	59.2 9.5 49.7	59.7 8.7 51	59.5 9.3 50.2	59.7 9.7 50.0	60 10 50	60 10 50	59.4 9.9 49.4	59.9 8.6 50	59.9 8.6 50.3	58.9 9 50.3	57.6 9 48.6	57 9 48
月間延利用数	計 男 女	21,669 3,493 18,176	1,792 262 1,530	1,844 289 1,555	1,791 291 1,500	1,860 310 1,550	1,799 300 1,550	1,841 310 1,499	1,798 310 1,531	1,826 266 1,560	1,787 266 1,560	1,653 261 1,392	1,818 317 1,501
月末在所者数	計 男 女	708 115 593	60 9 51	58 9 49	60 10 50	60 10 50	60 10 50	60 10 50	60 10 50	59 9 50	60 9 51	56 9 47	58 11 47
													年間平均稼働率 94.96%

(令和6年3月31日現在)  
＜分類別人員＞

年代別人員

区分	男	女	計	区分	男	女	計
50歳代	0	0	0	要介護1	0	0	0
60歳代	1	1	2	要介護2	0	0	0
70歳代	2	4	6	要介護3	3	14	17
80歳代	5	17	22	要介護4	4	14	22
90歳代	1	26	27	要介護5	0	13	16
100歳代	0	1	1	計	7	41	48
計	9	49	58		11	47	58

出身地別人員

区分	津山市	内加茂・阿波	計
計	11	(1)	56 (32)
要介護1	0	0	0
要介護2	0	0	0
要介護3	0	0	0
要介護4	0	0	0
要介護5	0	0	0
計	0	0	0

## 資料 1

利用実績表

令和5年度		合計	R5.4	R5.5	R5.6	R5.7	R5.8	R5.9	R5.10	R5.11	R5.12	R6.1	R6.2	R6.3
稼働日数	計	366	30	31	30	31	31	30	31	30	31	31	29	31
平均利用者数	計	59.2	59.7	59.5	59.7	60.0	60.0	59.4	59.9	58.9	57.6	57.0	58.6	
	男	9.5	8.7	9.3	9.7	10.0	10.0	10.0	9.9	8.6	9.0	9.0	10.2	
	女	49.7	51.0	50.2	50.0	50.0	50.0	49.4	50.0	50.3	48.6	48.0	48.4	
利用延べ人数	計	21,669	1,792	1,844	1,791	1,860	1,860	1,799	1,841	1,793	1,826	1,653	1,653	1,818
	男	3,493	262	289	291	310	310	300	310	298	266	261	261	317
	女	18,176	1,530	1,655	1,600	1,650	1,650	1,493	1,531	1,600	1,503	1,392	1,392	1,501

稼働率 95.1%

令和4年度		合計	R4.4	R4.5	R4.6	R4.7	R4.8	R4.9	R4.10	R4.11	R4.12	R5.1	R5.2	R5.3
稼働日数	計	365	30	31	30	31	31	30	31	30	31	31	28	31
平均利用者数	計	57.0	56.0	52.5	54.4	56.3	57.4	58.8	57.4	58.0	59.2	58.1	57.5	59.1
	男	9.2	8.6	8.4	8.4	8.9	8.5	10.0	9.3	10.0	10.5	9.6	9.0	9.0
	女	47.8	47.4	44.2	46.0	47.4	48.9	48.9	48.1	48.0	47.7	48.5	48.5	50.1
利用延べ人数	計	20,794	1,679	1,629	1,631	1,745	1,779	1,765	1,779	1,740	1,604	1,602	1,609	1,632
	男	3,350	268	260	252	277	262	299	289	299	324	299	252	279
	女	17,444	1,421	1,369	1,379	1,468	1,517	1,466	1,490	1,441	1,460	1,503	1,357	1,653

稼働率 95.0%

令和3年度		合計	R3.4	R3.5	R3.6	R3.7	R3.8	R3.9	R3.10	R3.11	R3.12	R4.1	R4.2	R4.3
稼働日数	計	365	30	31	30	31	31	30	31	30	31	31	28	31
平均利用者数	計	59.0	59.0	57.2	59.1	58.5	58.6	58.5	57.4	59.2	57.8	56.7	58.5	58.0
	男	11.4	12.7	12.5	12.6	12.5	13.0	11.9	11.5	10.5	10.3	10.0	9.5	9.1
	女	46.7	46.3	44.7	45.5	46.0	45.6	45.6	45.9	47.7	47.5	46.7	48.9	48.8
利用延べ人数	計	21,180	1,770	1,774	1,743	1,814	1,816	1,754	1,779	1,745	1,793	1,753	1,637	1,797
	男	4,146	382	388	379	398	402	358	355	315	319	310	267	283
	女	17,043	1,388	1,356	1,354	1,426	1,414	1,396	1,424	1,430	1,474	1,448	1,370	1,514

稼働率 96.7%

令和2年度		合計	R2.4	R2.5	R2.6	R2.7	R2.8	R2.9	R2.10	R2.11	R2.12	R3.1	R3.2	R3.3
稼働日数	計	365	30	31	30	31	31	30	31	30	31	31	28	31
平均利用者数	計	58.1	59.8	57.4	55.7	59.0	57.4	58.6	59.8	56.0	56.6	59.5	58.9	58.2
	男	13.0	13.4	12.7	12.6	13.0	13.0	13.4	14.0	13.2	13.0	12.4	12.9	12.7
	女	44.5	43.2	44.7	44.1	45.2	44.4	45.2	45.8	42.8	43.6	45.0	44.0	45.5
利用延べ人数	計	21,044	1,765	1,780	1,700	1,654	1,778	1,757	1,654	1,681	1,756	1,782	1,650	1,805
	男	4,769	403	394	377	403	403	401	433	397	403	385	374	395
	女	16,235	1,295	1,385	1,323	1,400	1,375	1,356	1,421	1,284	1,353	1,396	1,276	1,410

稼働率 96.8%

平成31年度		合計	H31.04	H31.05	H31.06	H31.07	H31.08	H31.09	H31.10	H31.11	H31.12	H32.01	H32.02	H32.03
稼働日数	計	365	30	31	30	31	31	30	31	30	31	31	29	31
平均利用者数	計	57.5	55.5	59.9	59.8	58.8	58.1	58.5	57.4	56.3	58.7	56.6	57.8	55.5
	男	14.6	15.0	13.5	13.9	14.0	14.1	15.0	15.0	14.7	15.0	14.9	14.8	15.0
	女	42.9	40.5	43.3	44.9	44.8	44.0	43.5	42.4	41.6	43.7	41.7	43.0	41.5
利用延べ人数	計	21,033	1,665	1,763	1,763	1,823	1,600	1,755	1,778	1,659	1,820	1,754	1,676	1,752
	男	5,332	450	420	417	434	436	450	465	440	465	462	428	465
	女	15,706	1,215	1,343	1,345	1,389	1,364	1,305	1,313	1,249	1,355	1,292	1,248	1,287

稼働率 95.8%

平成30年度		合計	H30.04	H30.05	H30.06	H30.07	H30.08	H30.09	H30.10	H30.11	H30.12	H31.01	H31.02	H31.03
稼働日数	計	365	30	31	30	31	31	30	31	30	31	31	28	31
平均利用者数	計	57.5	55.0	58.2	57.7	57.9	56.8	57.7	56.7	56.6	58.8	58.6	58.9	59.0
	男	14.5	13.4	14.8	14.6	14.6	14.8	15.0	14.0	14.1	13.9	14.1	14.4	16.0
	女	43.0	41.6	43.4	43.1	43.2	42.0	42.7	42.6	42.5	45.0	44.5	42.5	43.1
利用延べ人数	計	20,983	1,650	1,803	1,732	1,794	1,761	1,731	1,757	1,697	1,824	1,817	1,592	1,830
	男	5,285	401	459	438	454	459	450	435	423	430	438	403	495
	女	15,703	1,249	1,344	1,294	1,302	1,281	1,322	1,274	1,394	1,379	1,189	1,335	

稼働率 95.8%

平成29年度		合計	H29.04	H29.05	H29.06	H29.07	H29.08	H29.09	H29.10	H29.11	H29.12	H30.01	H30.02	H30.03
稼働日数	計	365	30	31	30	31	31	30	31	30	31	31	28	31
平均利用者数	計	57.0	55.7	59.2	59.9	58.5	57.1	58.6	58.4	58.7	56.2	55.4	56.4	54.8
	男	16.1	15.7	16.5	17.7	18.0	16.3	15.9	16.0	15.7	15.8	14.4	16.2	14.5
	女	41.0	40.0	40.6	41.5	40.5	40.8	42.7	42.4	41.0	40.4	40.9	40.2	40.3
利用延べ人数	計	20,607	1,671	1,763	1,776	1,814	1,771	1,769	1,810	1,700	1,743	1,716	1,579	1,700
	男	5,860	471	510	532	557	506	477	496	470	490	447	454	450
	女	14,947	1,200	1,285	1,244	1,257	1,265	1,232	1,314	1,230	1,253	1,269	1,125	1,250

稼働率 95.0%

平成28年度		合計	H28.04	H28.05	H28.06	H28.07	H28.08	H28.09	H28.10	H28.11	H28.12	H28.01	H28.02	H28.03
稼働日数	計	365	30	31	30	31	31	30	31	30	31	31	28	31
平均利用者数	計	54.9	53.1	54.1	55.3	54.2	52.0	54.1	56.5	54.1	55.9	57.6	57.6	54.6
	男	15.6	12.4	14										

## 2 給食

### (1) 概況

利用者の健康保持、増進とあわせて食べる楽しみを満たし、暖かい家庭的環境の中で老後の食生活を明るく楽しいものにすることを目標とし、全利用者の性別、年齢、身長、体重、身体活動レベルを基に「日本人の食事摂取基準（2020年度版）」により栄養基準量を算出し、これを基本として献立を作成し、充実した食事の提供を行った。（平均摂取量1,500Kcal/日）

### (2) 実施状況

- 1 嗜好調査を行い、利用者の意見が反映された献立、行事や食材により季節感や郷土色を感じられる献立を作成した。  
元旦には、嚥下困難な方のためにもちの代替え食を作りお雑煮を提供した。
- 2 前年度の実績により作成した食品構成を活用し、栄養基準を満たした献立を作成した。
- 3 利用者個々の状態に対応した食形態、自助具・自助器の使用、栄養補助食品の提供を含めた食事の提供を行った。
- 4 栄養指導は必要に応じて、個人を対象に日常会話を通じて行った。
- 5 給食材料の購入については、地元の店を優先し、価格、鮮度の面で信頼のできる業者を利用した。また、業務の効率化を図りつつ献立を豊かなものにする為、利用者の状態に合わせながらも楽しんでいただけのような食材選びに努めた。
- 6 温かい料理は温かく、冷たくして食するものは冷たく、適温給食の提供に努めた。
- 7 衛生面については、食品の取り扱いから、マスク・手袋・帽子の着用の徹底、施設・設備の整備を行った。  
手洗いの徹底、消毒、加熱、することにより、食中毒の発生を防いだ。
- 8 調理員の志気を高め、衛生面を考慮し調理室内では専用の白衣・帽子・靴を着用した。
- 9 食器やスプーン等も個々に合わせて調整し自力摂取を促し機能低下を防ぐよう関連職種で相談した。

(2) 実施状況  
食事の状況

(令和6年3月31日現在)

内 容		備 考	
		6年	5年
おにぎり食 ごはん かいゆ食 ・金がゆ ・五分がゆ ・おもゆ ・かゆミキサー	主食	2人 20人 34人 23人 0人 0人 11人	1人 22人 33人 27人 0人 0人 6人
普通食		15人	18人
軟菜食 きざみ食 超きざみ食 ミキサー食	副食	15人 7人 17人	20人 9人 11人
経管栄養食	経管栄養食	1人	2人
特別食 【特別に費用を 徴するもの】	療養食 糖尿病食 減塩食		医師の指示により対応

食事の分類も利用者の状態（義歯の不適当な者、咀嚼、嚥下困難な者等）、本人の希望などがあり複雑になっている。日々の状態が変わるとめ、食事変更は看護職員より連絡を受ける。また、特定の疾患（糖尿病等）を患っている方の食事については、医師の指示を受けて、個々にあわせた栄養計算に基づく食事を提供している。また、食器やスプーン等も個々に合わせて対応している。

令和5年度 行事食の状況

月	日	行事名	行事 食 の 概 要
4月4日	ひな祭り	三色押し寿司、牛肉のごま炒め、豆腐の赤だし、苺ババロア	
5月5日	端午の節句	ふきと筍のちらし寿司、キヤベツとささみの辛子和え、舞茸のすまし汁、季節の和菓子	
6月1日	田上がりぼた餅	田上がりぼた餅、小松菜の卵とじ、かまぼこのすまし汁、きゅうちやん漬け、ヨーグルト苺ソース	
7月30日	土用の丑の日	うな丼、いかと胡瓜のさっぱり和え、厚揚げの味噌汁、メロン	
8月7日	七夕まつり	セタそうめん、茄子のそぼろあん、なめこのみぞれ和え、抹茶豆乳ゼリー	
8月13～15日	お盆	精進料理	
9月18日	敬老祝賀会	お赤飯、鯛の塩焼き、松茸入り茶碗蒸し、野菜とがんもどき煮物、茶そばのすまし汁、祝いケーキ	
9月23日	秋分の日	おはぎ、あじのごま風味焼き、雷汁、りんごの抹茶クリーム	
10月15日	軒戸祭り	祭り寿司、南瓜のそぼろ煮、卵豆腐のすまし汁、プリンアラモード	
12月24日	クリスマス会	ビース御飯、鶏肉のもろみ焼きの盛り合わせ、南瓜サラダ、シーフードシチュー、クリスマスゼリー 苺添え	
12月31日	大晦日	年越し蕎麦、青のりおにぎり、胡瓜の酢の物、野菜ジュースゼリー	
1月1～3日	おせち料理	お雑煮、黒豆、数の子土佐漬け、五色なます、鯛と野菜の炊き合わせ、牛肉の八幡巻き、伊達巻 お正月ミニート、数の子入り酢の物、栗きんとん、甘酒ミルクプリン、ぶりの照り焼き、三色そぼろ寿司	
1月7日	七草粥	七草粥、カレイの煮つけ、白菜の松前和え、白はんぺんのすまし汁、ゆずりんご	
1月15日	小正月	小豆粥、ブリの南部焼き、レンコン炒め、吉野汁、オレンジ	
2月3日	節分	節分ちらし寿司、ほうれん草のなめ茸あえ、里芋の煮物、花麩のすまし汁、抹茶ゼリーと梅	
3月20日	春分の日	ぼた餅、筑前煮、菜の花のすまし汁、野菜ジュースゼリー	

## (1) 概況

- ・高齢化に伴い、心身の機能低下が著しく、貧血や骨粗しょう症等の基礎疾患に加え、疾病の慢性化、重度化に対して医療的なケアの必要性、希望が高くなっている
- ・高齢者の利用者においては、老衰・終末状態にある方もあり、家族の思いに沿ながら看取り体制をとっている
- ・在宅介護ケアに対しては家族様の思うに添えるよう日々のケアに努めています
- ・在宅介護の限度を超えた認知症高齢者ケアや在宅酸素、バルーンカテーテルの留置、褥瘡保有者も多く、医療処置が増えているのが現状で、定期受診や緊急時を含め、救急搬送が必要なケースも増えています。看護体制加算Ⅱ（12単位）で対応しています（常勤換算4.0以上）
- ・感染症対策については、重篤化予防のため、早期の予防対策に努めた
- ・介護職員の医療的ケアの実務研修を担当、4名登録を行いました。対象者は順次研修ができるよう体制を整えています

## (2) 重点目標

- ①日常的な利用者個々の健康状態の確認、異常の発見と迅速かつ的確な対応。
- ②褥瘡ゼロをめざし、早期完治と予防策の徹底。
- ③感染症予防対策の徹底と発生時の拡大防止の指導。
- ④生活を中心の個別リハビリ・総合リハビリの実施により心身機能の低下防止を図る。
- ⑤状態変化について家族との連絡を密にし、安心を提供する。
- ⑥看取りについての体制を整える。
- ⑦口腔ケア、フットケアの実施。
- ⑧職員の健康管理・個人衛生の徹底・腰痛防止対策の実施。

## (3) 實施状況

- ①施設内診療状況
  - 定期回診 只友医院 火、木、金（毎週）
  - ひらいクリニック 水（毎週）
- 利用者一人一人の健康管理については、疾病の安定を図るため、病院側と連携し対応を行った（発熱者、体調不良時はその都度報告し、早期処置や専門医受診等で対応）

②受診状況（延べ人数）

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
回数	7	3	5	7	10	2	7	4	3	6	9	12	75

<内訳> 内科36回（P.E.G4回）ベースメーカー一外来5回、外科2回、泌尿器科5回、皮膚科16回、婦人科1回、精神科1回、歯科5回、整形外科4回

\*前年度よりのペ回数26回減となっている。皮膚科受診は定期受診が多かった。

③入院状況

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
人数	1	1	1	1	0	1	1	5	1	5	1	1	19
在院	38日	15日	18日	10日	37日	0	22日	17日	68日	2日	98日	15日	340日

<内訳> 誤嚥性肺炎7名、腎盂肾炎3名、尿路感染症2名、貧血1名、肺炎2名、胆道閉塞1名、尿路結石1名 貧血症1名

胆管炎1名

\*前年度より13名減となっている。入院日数は340日、404日減となっている。10月、1月はコロナ感染あるも入院者なし

④死亡者 年間8名（前年度より7名減、内看取り対応4名）

⑤褥瘡の状況（令和6年3月31日現在） 保有者 2名

- 予防対策 ①体位変換 ②分圧型マットレス使用 ③円座・ナーセントパット等の使用
- ③ポジショニング（個別対応） ④ガーゼ交換・創傷被覆材使用
- ⑤栄養状態の把握（栄養補助食品の検討 ⑥専門医受診等

⑥ 利用者の健診診断実施状況

<胸部レントゲン>

<喀痰検査>>チールネルゼン検査 (結核予防法対応)

小川法培養

実施年月日	対象人員	実施状況	結果
R5. 8. 23	7名 健康づくり財団 (施設玄関前)	精密検査 0名	R5. 8. 23 52名 全員陰性 入院1名
		2月は喀痰検査 へ全員移行する	R6. 2. 27 51名 全員陰性 入院1名

3か月後の判定結果（一）、発症なし

定期的な健診診断については、胸部レントゲン検査、喀痰検査を実施している

利用者の健康管理については、変化時にかかりつけ医へ状態報告を行った。

<経管栄養者> R6年3月31日現在

2名 主治医の指示のもとカロリーや時間設定を行い、加圧ポンプにて注入を行っている  
P E Gの交換については6か月ごとに病院受て交換を受ける

<感染症予防対策>

・手洗いの徹底、利用者の食前は、アルコール消毒、食後は口周辺や手指の保育に努めた。

・多職種連携により、ノロウイルスと感染症予防のための消毒等の徹底を図った。

・感染症の経路を絶つことを重点に、職員、面会者への注意、指導を行った。

・居室やベッド周辺、廊下や手すり、床などの環境整備に努めた。（温度・湿度調節）

・感染性胃腸炎に対する汚物処理の仕方、手袋、予防衣着用の方法について指導を行った

<インフルエンザ予防対策>

・年間をとおして、利用者、職員の手洗い、口腔ケア、うがいの施行を行った。

・玄関にポスター提示し、予防対策への注意を呼びかけ、アルコール消毒を励行した

・インフルエンザ予防接種を実施する（利用者54名、職員47名）

<新型コロナウイルス感染対策>

・5月、新型コロナが5類移行後も、施設内感染拡大防止の目的で、マスク着用や手洗い等感染対策は継続し、面会者も窓越し面会や15分制限を行った。

・5年度には、施設内感染を3回起こしている。1回目は10月に1名、2回目は2月に利用者3名、職員8名、3月には利用者7名、職員1名の発症があつた。その都度、保健所へ報告し、感染対策のアドバイスを受けながら、治療と感染対応を実施していった。拡大は最小限に抑えられた。

職員の感染対応についても、しっかりとできていたが、水分補給や保育面での課題も見えてきたため、今後の課題である

・抗原検査については、6年1月まで、利用者、職員共に週2回のペースで実施した（キットについては県より支給あり）

・コロナワクチン接種については、利用者57名（5～6月）、職員47名（5～6月）、37名（10月）を実施した

⑥職員健診実施状況

実施年月日	R5, 8, 23	R6, 2, 27	R5, 12月～R6, 3月
既往歴	血圧	既往歴	〈人間ドック〉
自覚症状	貧血	自覚症状	生活習慣病予防検診
身長	肝機能	身長	乳癌、肺癌、胃癌
体重	血中脂質	体重	子宮癌検診
内容	検尿	検尿	(県山中健康管理センター)
	心電図	心電図	子宮がん検診のみ（2名）
聴力	胸部エックス線	聴力	
対象者	64名	26名（夜勤者のみ）	27名

<腰痛検査>年2回実施

近光整形外科診療所にて外来受診をし検査を受ける。

令和5年4月、受診者51名 腰痛者7名

令和5年10月 受診者38名 腰痛者4名

安全衛生委員会より個別面接を行い、助言・指導を行った  
腰痛ベルトの配布、ストレッチ体操等、労働災害対策を行った

⑦調理職員検便実施状況

実施年月日	実施人數	実施年月日	実施人數	実施年月日	実施人數	実施年月日	実施人數
R5.4.4	10	R5.7.4	9	R5.10.3	10	R6.1.9	10
R5.5.2	10	R5.8.1	9	R5.11.7	10	R6.2.6	10
R5.6.6	10	R5.9.5	11	R5.12.5	10	R6.3.5	9

\*腸管出血性大腸炎、赤痢菌、サルモレラ菌、腸チフス、ペラチフス菌の検査あり、月1回検査出し、全員陰性であった

\*ノロウイルス検査については、10月9名、11月10名、12月10名、1月10名、2月10名、3月9名の検査を実施した  
全員陰性であった。

⑧技能実習生職員の健康管理

- ・技能実習生職員に対しては、買い物の支援や生活支援を行い、働きやすい環境作りに努めた
- ・技能実習生職員に対して、健康管理に対してのアドバイスや助言を行った

(4) リハビリ実施状況（令和5年4月～令和5年6月）

①個別リハビリ

月	別	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
実施回数		30	31	30	31	31	30	31	31	30	31	28	31	365
延べ参加人数		1,080	1,860	1,770										4,710

②歩行訓練

月	別	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
---	---	----	----	----	----	----	----	-----	-----	-----	----	----	----	---

③起立訓練

月別	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
実施人数	3	2	12										17
延べ参加人数	90	62	360										512

④フットケア

月別	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
実施人数	6	30	20										56
延べ参加人数	180	930	600										1,710

重点目標①：日々の集団・個別リハビリを通して状態変化に早い状態で気付き、各部署へ状態報告を行う。

重点目標②：入居者全員の身体評価とOHスケールを実施し、各部署へ報告を行う。

上記の評価とともに、現在利用者が使用しているマットレスやベッドが適切かどうかの評価を行い、適宜交換変更する。  
食事前には車椅子座位姿勢を正し、安楽な姿勢保持する。ナーセント等を用いて必要性のある利用者へ実践し、  
安楽な姿勢保持する。ラジオ体操、歌体操で身体のストレッチ、口腔体操で誤嚥予防を実施する。  
浮腫や下肢疼痛のある方には個別にマッサージを行うことで痛みの緩和、浮腫の軽減に努める。

その他：7月以降は人數確保不足で機能訓練指導訓練停止に伴い、個別リハビリは出来ていない。  
以降、日常生活動作に必要な動きに関わる関節運動やマッサージを行い、集団でのレクレーション計画行事として納涼まつり・敬老会・運動会・新年を迎える会を行い、地域行事では秋祭りで子供みこしとのふれあい会を実施。

書

場

茂

社

会

人

加

福

祉

書

告

報

業

事

ショートステイ

緑山荘

令和5年度

## I 概要

在宅での生活を継続するために心身機能の維持・向上を図るべく機能の活用、生活リズムの調整、他者との交流等により活気のある時間を過ごす事ができるようサービス提供に努めた。  
また家庭の事情に配慮し、介護負担の軽減のために認知症の方の利用、緊急利用についても利用日の調整を行い、受入れを行った。

### ○サービス提供の為の関係機関との連携

- ・適切なサービス提供が実施できるよう居宅介護支援事業者や他の関係機関との情報共有及び連携を図り、利用者の状態及び家族や住環境等の利用者周辺の環境等の情報収集に努めた。
- ・居宅介護支援事業者等が作成した「居宅サービス計画書（介護予防サービス計画書）」に基づき、「短期入所生活介護計画書（介護予防短期入所生活介護計画書）」を作成し、計画的なサービス提供に努めた。

## II 利用状況

利用延べ人数は940人と前年に比べ130増となった。  
迎えに行った利用者宅で月1回の抗原検査の実施、健康チェックシートへの記入を行った。入所者が新型コロナに感染し、ショート受入れを中止することもあった。

今後の稼働率アップの為には、利用者本人とその家族が利用しやすい状況をつくること、居宅介護支援事業所との連携を図り新規利用者を確保すること、利用者本人にまた来て利用したいという楽しみを持ってもらえるよう質の高いより良いサービスを提供するよう心がけることが必要と考えられる。

社会福祉法人 加茂光陽会

緑山荘  
デイサービスセンター  
事業報告書

令和5年度

## I 概要

介護保険制度において、在宅の支援に重点が置かれている中、施設の持つ機能を活用して、積極的に事業に取り組んできたが、年間利用者人数は、利用者の入院・療養・ご逝去等により変動があり、利用者の減少に伴い令和3年6月1日より利用定員を20名から18名に削減し、「通所介護」から「地域密着型通所介護」事業へ移行した。

また、利用者数減数、職員退職により令和5年1月31日を以って休止する事となり、令和5年度の事業は実施できていな

い。

(1) 機能訓練指導員のもと、健全体操の実施、機能訓練器具の使用・レクリエーション活動の参加を積極的に促し、残存機能の活用と身体機能の維持向上のため職員全員で取り組んだ。

(2) 利用者の方が「生き生きと生活する」を目標に、季節ごとの行事・日々日常のゲームやレクリエーションの参加を促し、利用者全員参加の機会拡大に努めた。創作活動を率先して活用しながら利用者間の積極的な交流の場を設け、お互いに思いやりと優しさが交わせるよう環境づくりを心がけた。しかし、利用者の高齢化と重度化（疾患の多様化と療養の長期化）に対して円滑な対応が難しく、利用者個別のニーズの把握について今後の課題としてとらえる必要がある。

(3) ご家族との報告・連絡をできるだけ密に行なうように努めた。ご家族と介護支援専門員との連携をはかり、且つ職員間の情報共有を行い、介護者の身体的、精神的介護負担の軽減に努めてきた。心身両面での支援を実施し、サービスに反映されるべく利用者に対して平均的なサービスが行えるように意思統一を図った。

(4) 良いサービスは、環境づくりから。健康器具、電気器具等備品の整理を行い、職員の働きやすい現場が利用者により良いサービスが提供できる。適切な言葉、適切な服装、適切な服装、適切な服装、適切な服装を実践することによりサービス向上に繋げる。

社会福祉法人 加茂陽光会

事業報告書

緑山荘

居宅介護支援センター

令和5年度

## 1. 概 要

住み慣れた地域の中で在宅生活を継続することができるよう、在宅介護に関する援助及び介護保険サービスを利用するための支援を実施し、要介護状態になった場合でも個々の有する能力に応じて自立した生活を自宅で送ることができるよう、利用者の心身や介護者の状況や生活環境等に応じて、利用者及び介護者の選択に基づき、介護保険サービス及び保健医療サービス、他の福祉サービス等が提供されるようにケアマネジメントを実施するために下記の4項目を行う予定であったが、令和3年6月21日をもって緑山庄居宅介護支援センター休止。令和4年度以降の事業は実施できない。

- 1 要介護高齢者の実態把握  
地域の要介護状態の方について心身の状態や介護者、環境などの実態を把握し、介護保険サービス等の円滑な利用に資するためニーズの的確な把握に努める。
- 2 積極的な相談業務の展開  
在宅介護に関する各種の相談に対し電話・面談などによるほか、訪問により介護の方法やサービス利用などについての積極的に相談、助言に努める。
- 3 介護保険サービスの利用の位置づけ  
各種の介護保険サービスが適切に利用できるよう、利用者の心身や介護者の状態や環境に応じ、利用者の選択に基づき公正・中立な立場に立ったうえで、居宅介護サービス計画を作成し適正にサービスを位置付ける。
- 4 関係機関との情報の共有化と連絡調整  
居宅介護支援事業の実施にあたり津山市地域包括支援センター及び市町村、医療機関やサービス事業者間において、利用者に閲することや居宅サービス計画の内容、実施状況等の情報共有に努める。

また、津山市地域包括支援センターとの情報共有については、要介護状態となつた際に相談時から共同で対応を行うことにより利用者に対し必要時に迅速にサービス提供を行うことができるように努める。

## 2. 居宅介護支援事業

介護保険制度の趣旨に従い業務を実施、要介護状態の方が安心して地域で生活できるよう支援に努めた。介護認定を受け、介護保険サービスを利用する方などからの相談に応じ、利用者の希望や心身の状態を考慮しながら、在宅や施設での適切なサービスが受けられるよう居宅サービス計画の作成や関係機関との連絡調整を行うために下記の2項目を実施する予定であったが、令和3年6月21日をもつて緑山荘居宅介護支援センター休止。令和4年度以降の事業は実施できないない。

### 1 居宅介護支援事業

- ①利用者が自分が選択する事を基本に、介護保険サービス等の利用については公正中立な立場で、十分なアセスメントの実施の上で居宅サービス計画の作成に努め、サービス調整を図り、適正にサービス利用ができるよう支援を行った。
- ②運営規程に添つて定められた、サービス担当者会議の開催、月1回の自宅訪問、モニタリングを行い、確實に記録に残すよう努めた。
- ③他事業や施設、地域包括支援センター、行政との連携及び調整をはかり、情報の共有化に努め、居宅サービス計画の作成を行う。

### 2 加茂、阿波地区包括ケア会議

加茂・阿波地区包括ケア会議に毎回参加し、津山市包括支援センター、津山市高齢介護課、加茂支所、社会福祉協議会、病院、介護保険事業者、民生委員等から情報提供を受け、津山市における福祉、介護の分野の現状把握とニーズの確認に努める。

社会福祉法人 加茂光陽会

事業報告書

グループホーム杉宿

令和5年度

## I 概要

認知症によって介護が必要になつたご利用者が安心して、自分の居場所として感じられるような家庭的な環境つくりに努めた。地域の協力をいただき、避難訓練や子ども会との交流など感染対策に注意し地域交流を図つた。ご家族とご利用者との時間を大切にしていたため、外出や面会も柔軟に対応した。

- (1) 利用者の自立支援の質的充実・人格を尊重し、常に利用者の立場に立つたサービスの提供に努めた。
- ・ホームでの生活が快適でより豊かなものとなるよう、環境づくりに努めた。・利用者および、その家族に対しサービスの内容および提供方法についてわかりやすく説明するように努めた。ご家族と離れて暮らすご利用者の日常生活をお伝えできればと、行事や日常の余暇の様子を写真に撮り毎月数枚ずつを利用料請求の際に同封して送付した。・適切な介護技術をもって、サービスを提供するよう努めた。
  - ・グループホーム杉宮内でご利用者が楽しめる行事を各ユニットで行つた。・令和5年6月18日（日）令和5年10月10日（月）ミニ運動会。・令和5年8月6日（日）納涼祭。・令和5年9月18日（月）敬老会。令和5年12月24日（日）クリスマス会。令和6年2月3日節分。令和6年3月3日ひな祭り会。避難訓練の際には、地域の消防団、町内会の役員などの参加により、地域の交流が出来た。
  - ・ご利用者の家族からの差し入れ野菜、旬の食材を使用し、ご利用者の希望に添つた献立を作りと衛生管理に努めた。
  - ・ご利用者の健康管理について、主治医・家族・訪問看護師と連携し、日常の健康チェックを行い、健康管理に努めた。
- (2) 適正な運営管理並びに関係機関との連携
- 施設のもつ社会的使命を自覚し、行政・医療機関・社会福祉協議会等、関係機関との連携を密にして、利用者のサービス向上に努めた。(運営推進会議開催・包括ケア会議、また外部評価や運営指導により貴重なご意見等をいただいた。)
  - 津山市高齢介護課からDVDを借り、津山市が謹めている『こけないからだいいそう』を週1回ユニットごとで実施している。
- (3) 職員の知識および技術の向上
- 利用者の自立支援のため、認知症の方々に対し、一人ひとりのニーズや意思を尊重し、常に誠意を持って質の高いサービスが提供できるよう、積極的に外部研修に参加する機会を設け、自己研鑽に励み、専門性の向上に努めた。(外部研修受講：認知症基礎研修・介護報酬改定・介護技術・レクリエーション、転倒予防・感染症対策研修会・高齢者虐待防止研修会・認知症ケア・不適切ケア・観察と記録) (内部研修：身体拘束・誤嚥・接遇・避難訓練・認知症知識・感染症・介護技術・医療的ケア・介護保険制度など毎月勉強会として実施した。)

令和 5 年度  
稼働率

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
しゃぼん玉	94.4	99.6	100	100	100	100	100	95.9	88.5	96.8	100	100
紙ふうせん	89.6	94.6	88.9	88.1	100	100	99.6	86.2	91.3	99.6	100	97

年間平均稼働率 しゃぼん玉 97.9% 紙ふうせん 94.6%

令和 6 年 3 月現在

	男	女	計
60 歳代	0	0	0
70 歳代	0	0	0
80 歳代	1	9	10
90 歳代	1	7	8
100 歳代	0	0	0
計	2	16	18

平均年齢 88.1 歳

介護度別人数

	男	女	計
要介護 1	1	4	5
要介護 2	1	6	7
要介護 3	0	4	4
要介護 4	0	2	2
要介護 5	0	0	0
計	2	16	18

平均介護度 2.2